

令和5年度

上勝小学校 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

○学習活動を充実させるための授業づくり

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
古田 有美	校長:川村 恭弘 指導教諭:古田 有美 教頭:森岡沙緒里 研修主任:上田 早代

校長

川村 恭弘

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○まじめに学習に取り組み、自分のペースで課題を行うことができる。 ●文章を正確に読み取ったり、身につけた知識等を関連付けたりすることに個人差がある。	・問いの意図を正しく理解することができる。 ・基礎的・基本的な学力を身につけ、習得した知識や技能を他の学習や生活の場面において活用することができる。	・活字に関わる時間を増やし、活字への抵抗を減らす。 ・児童が興味をもって学習に取り組めるように、発問や問題提起を工夫したり、知識・技能の習得の助けになるヒントカードを用意したりする。	・図書だけでなく、新聞を読む時間も作っていく。 ・単元に応じて、ミニテストや工夫を凝らした課題プリントを行う。	・新聞を活用し、活字に関わる時間を増やすことができた。 ・基礎基本となる知識・技能が身につけている児童が増えた。 ・ミニテスト・課題プリントを活用し、定着につなげることができた。 ・学んだ内容を教室に掲示することができた。	・基礎基本の学力の定着をさらに図り、応用問題に対応できるようにするとともに、生活や他の学習の場面でも活用できる力を身につける。 ・読書量を増やす。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えを様々な方法で発表できる児童が多い。 ●課題に応じた情報を取捨し、友達の意見を聞いて新しい考えを創造したり、自分の考えを簡潔に表現したりすることに課題がある。	・各授業において課題等に対して、話し合い活動等を通して、解決する方法を考えることができる。 ・目的に応じて、自分の考えをまとめたり、表現上の工夫をしたりすることができる。	・ホワイトボードやICTを効果的に活用した発表や話し合い活動をさせる。 ・目的や伝えたい内容に合った思考ツールを活用させる。	・ICTの活用法を工夫する。 ・児童同士での話し合い活動の場の充実を図る ・児童同士の表現物をしっかり見る機会を設け、表現の参考にする。	・ICTや思考ツールの活用の提示はできた。 ・教師のICTの活用の工夫で、児童の思考表現の時間が十分にとれた。	・ホワイトボードやICTなど、表現方法を自分で取捨選択して、自分の考えを伝えられるようにする。 ・発表の前に自分の考えをまとめる時間をつくるなど、授業の工夫をする。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○各授業や与えられた課題に一生懸命取り組むことができる。 ●学習したことを自分の生活に生かしたり、自分の考えを他者へ伝えたりすることに課題がある。	・各教科の学習に主体的に取り組むことができる。 ・自分の学習状況をしっかりと振り返ることができる。	・児童の発言などから本時のめあてを作成したり、次時につながる振り返りを行い、課題をもたせたりする。 ・考えるときに、児童にモデルを提示し、自分の言葉で記述させる。	・前時と異なるところに注目させたり、問題文を読み取らせたりして、めあてを児童とともに作成する。 ・考えをまとめるときは、モデル文だけでなく、児童の実態に合わせて括弧抜き文にするなどしてしっかり書かせ	・児童自身で学習のめあてや振り返りを考えることで、実生活に生かすことができた。 ・括弧抜きなど、自分たちで考えて、進んで取り組む様子が見られた。	・前時の振り返りを本時に活用していく。 ・自分なりの言葉でまとめて発表できるように段階を踏んでいく。

令和5年度 学力向上ロードマップ

